

新宮山彦ぐるーぷ第2241回

## 行仙宿巡回整備

◇実施日 6月10日(土)

晴

◇参加者

梶野照雄

1名

先日整備のためチェーンソーを3台持って帰った。

3台ともオイルと木屑の塊が詰まっていたので、いずれもきれいに取り除いた。エンジンは快調で、まだまだ使用に耐えそうだ。

我が家の倉庫にはチェーンソーが3台あり、そこへ3台のチェーンソーが増え、大型の物は床に置くしかなく足の踏み場が無くなり不便を極めていた。



1台目のチェーンソー

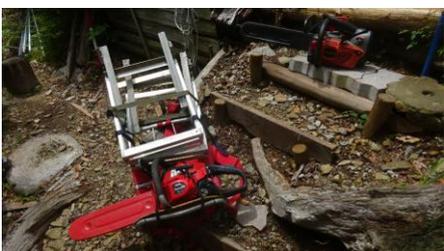
保護材を塗る

フランス人青年

行仙宿の水場も長い間確認していないので、チェーンソーの荷揚げ

と共に水場の確認を行った。

チェーンソーの一台は持経宿とシールが貼ってあったので、行仙宿の物は2台、モノレールに積んで終点まで行ったが、背負子に2台とも乗せるのが難しく、1台ずつ運んだ。



2台目のチェーンソー

倉庫に収納

水場の確認

行仙宿に着くと何やら人の気配がする。小屋のドアを開けると外国人の青年が2人いた。彼らの会話を聞いていると、フランス語らしいので「フランスから?」と聞いてみた。

日本に住んでいるのではなく、フランス時から来て高野山、那智山、そして奥駈道と歩いていらっしゃるらしい。

村吉さんのテーブル前のベンチを造りかえるためにお堂にある厚板2枚に木材保護材を塗る。片面が乾燥する間に水場へ降りる。途中から水の流れ落ちる音が聞こえだし、水量の多いことが良く判る。水場の水溜に落石が20個程あったが、枯葉は殆ど無かった。豪雨で全部流されたようだ。10リッターのタンクを一杯にして小

屋に戻った。

小屋に戻って厚板の裏側を塗る。簡単に昼食を済ませて残してきたチェンソーを取りにモノレール終点に降りる。2台目のチェンソーを背負子に括り小屋を目指す。行仙宿に着いてチェンソー2台を倉庫に収納、管理棟も開けて内部の確認をする。



10リッターを運ぶ

行仙宿に戻る

裏も塗る

厚板をもう一度塗装し、乾燥を待つ間小屋でフランスの青年と話す。フランス語風の英語が聞き取りづらく、単語のやり取りになってしまった。ストーブのフェンスに濡れたザックや服を掛けていたので、ストーブに火を入れ、薪を足すように教えてから下山した。途中で、枯れて腐りつつある直径25cmほどの木を切った。その横に新しく道を付ける予定だ。

(記：梶野)



枯れ木を切除



左側に道を



下山

### 行動タイム

09:50 補給路登山口↓10:30 行仙宿 110:55↓11:05 モノレール  
終点↓11:30 行仙宿↓12:39 水場↓13:24 行仙宿 13:05↓14:50  
補給路登山口